

議会レポート 22

住所：千代田区九段南1-2-1 千代田区役所7階 発行：千代田区議会 自由民主党



平河天満宮 千代田区指定有形民俗文化財
 ①常夜灯 / ②撫で牛・石牛 / ③銅鳥居 /
 ④狛犬
 ほか、筆塚も指定されております
 千代田区指定有形民俗文化財を視察しました

オリンピック・パラリンピック
 特別委員会
**オリピック
 ミュージアム
 対策特別委員会視察**

文化財保存・活用特別委員会
**国史跡常盤橋
 文化財保護
 特別委員会視察**

〔常任〕保健福祉委員会
**ザ番町ハウス
 保健福祉委員会視察**

**千代田区議会
 令和二年
 第四回定例会**

皆様のご意見をお聞かせください。

〒102-8688
 千代田区九段南1-2-1 千代田区役所7階
 電話 03-5211-4320
 FAX 03-5275-6882

千代田区議会 自由民主党

一般質問 西岡めぐみ
 本区第四次文化芸術プランの
 策定について
 住民参加型のエコミュージアム
 事業展開について
 日比谷図書館文化館への
 交通機関拡充について

一般質問 嶋崎秀彦
 P H R (パーソナル・ヘルス・レコード)
 の活用について
 区におけるDX(デジタルトランス
 フォーメーション)の在り方について

一般質問 桜井ただし
 四番町公共施設整備について

四番町公共施設整備について

問：（仮称）四番町公共施設整備については、1棟ずつの段階的建替えと2棟一括建て替えの比較、住宅更新に伴う建て替え移転の状況、四番町保育園と他の保育園の環境比較、四番町住宅及び四番町アパートの意向調査などを経て一棟(案)が妥当であるとの結論に達した。改めて具体的に整備とその利点、日程について問う。麹町(仮)住宅の戸数は53戸、四番町住宅、アパートから移られる方は何戸か。使用されない住戸数は。移転をする際の問題は。使用されない住戸があるとすれば、大いに活用すべき、災害などの仮住宅として又、入居者のための相談員、日常生活の支援員としての役割も重要、検討を望む。最後に永田町駅と住宅を結ぶ地下通路工事の進捗は。

答弁：四番町公共施設は34年から40年が経過し老朽化による経年劣化に加え耐震性やバリアフリー等多くの課題を抱えていた。一棟整備により土地の有効活用が図られ切れ目のないサービスの提供が可能となるが供用開始は感染拡大防止の影響により令和7年度からを目指している。麹町(仮)住宅の住戸数は53戸。四番町住宅・アパートから32世帯の方が仮住宅へ移られる予定。仮住宅で使用されない住戸は20戸程度になる見込み。ご提案の災害等の仮住宅として活用することは区の住宅施策の中で諮り活用策を検討する。相談員など何らかの支援体制を講じたい。永田町駅を結ぶ貫通通路は協議を継続しており、その実現に向けて鋭意取り組む。



一般質問（要旨）

桜井ただし

所属委員会

企画総務委員会

景観・まちづくり特別委員会

災害時要配慮者等対策特別委員会

詳しくは、千代田区議会ホームページ <https://gikai-chiyoda-tokyo.jp/>

オリンピック・
パラリンピック特別委員会

オリンピックミュージアム 対策特別委員会視察



11/18 オリパラ対策特別委員会では、明治神宮外苑の国立競技場前にあるオリンピックミュージアム東京を視察してまいりました。

目的は前回の東京オリンピックを知らない世代の議員の皆さんに、過去の大会の歴史を振り返るとともに、オリンピック理念を推進するIOCの活動等を知るために視察しました。前日の17日にはIOCバッハ会長が

訪れたとのことでした。前回オリンピックを知る議員には1964年のオリンピックの記憶がよみがえる写真などがありました。NHK大河ドラマ「いだてん」の金栗四三さんの足袋の写真、日本人女性初の五輪金メダリスト「前畑がんばれ」で有名な前畑秀子さんのプロフィールと写真など展示されていました。

（委員長:小林やすお）



詳しくは、千代田区議会ホームページ <https://gikai-chiyoda-tokyo.jp/>



一般質問（要旨）

西岡めぐみ

所属委員会

地域文教委員会

オリンピック・パラリンピック対策特別委員会

文化財保護・活用特別委員会



一般質問（要旨）

嶋崎秀彦

所属委員会

予算・決算特別委員会

保健福祉委員会

オリンピック・パラリンピック対策特別委員会

災害時要配慮者等対策特別委員会

本区 第四次文化芸術プランの策定について

問：改定から約1年遅れた当該プランについて、進捗状況と今後の一連のフローを明確に。本区の貴重な文化財等保存、活用の為に、地域企業の芸術文化支援（メセナ活動）の橋渡し役を行政として担うべき。又、ポコラート展での障害者アーティスト支援に繋がる様、展示販売会等の工夫をし、二案をプラン内に明記すべきではないか。

答弁：検討会議と庁内調整後、来年3月にプラン策定予定。企業メセナの推進を図り、文化歴史に触れる機会増加に努める。障害者アーティスト支援策についても検討したい。

住民参加型のエコミュージアム事業展開について

問：地域コミュニティ醸成の為に、エコミュージアムとして観光協会、広報部門、文化芸術施設、国、都、区内大使館、地域の古美術店やギャラリーにも参画頂き、地域住民との文化芸術教育、文化力向上、芸術接点との機会創出を図り、未来の教育、福祉、医療効果に繋げて本区の貴重な文化芸術資源を活かすべきではないか。

答弁：文化芸術チケット助成や各所と連携し文化芸術振興を図る事で地域発展に寄与し、情報発信等、利用促進の手法を検討したい。

日比谷図書文化館への交通機関拡充について

問：地域福祉交通「風ぐるま」について、日比谷図書文化館で区民の健康増進や福祉的要素が含まれる行事が開催される際、せめて臨時便を出すべきではないか。

答弁：臨時便については困難だが、運行上の課題について、現在、庁内で検討中である。

詳しくは、千代田区議会ホームページ <https://gikai-chiyoda-tokyo.jp/>

PHR(パーソナル・ヘルス・レコード)の活用について

問：現在、健康に関するデータ管理は、母子手帳から始まり学校や職場の健康診断等、ライフステージ毎に管理されています。効果的な医療の提供、保健事業の向上等には、情報を一元管理することが望まれます。

そのためには個人の健康・医療・介護に関わる情報（PHR）を時系列的に管理・活用することが必要であり、このことが自身の健康増進や生活改善、医療機関におけるサービス向上等に繋がります。PHRを意識した保健施策の推進が必要と考えますが、区の見解は。

答弁：国はPHRの拡充のため、2022年をめぐりにマイナンバーカードを活用し、生涯にわたる健康データの提供と医療等への活用について検討しています。

区としては、区民が自身の様々な保健医療情報を健康増進や生活改善などに役立てられるよう、医師会等と連携しPHRの活用を検討していきます。

区におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)の在り方について

問：DXとは、デジタル技術を浸透させることで、人々の生活をよりよいものへ変革することとですが、区におけるDXの現状は②新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、行政事務の情報化を推進すべき。区の今後の方向性と取組体制は。

答弁：①国はコロナ禍を踏まえ、マイナンバーを利用した事務・情報連携の改善など、行政のデジタル化を強力に推進することを明らかにした。区は、こうした動きを捉えて、誰もが安全・安心に利用できることを本区の情報化の目指すべき姿として取り組んでいる②コロナ禍で、行政のデジタル化の大切さを実感。DXを念頭にデジタル化を進めていく。

詳しくは、千代田区議会ホームページ <https://gikai-chiyoda-tokyo.jp/>

【常任】保健福祉委員会

ザ番町ハウス 保健福祉委員会視察

11/25 保健福祉委員会で二番町に建設された「ザ番町ハウス」の国内行政調査を行いました。

「ザ番町ハウス」は地上8階建ての施設で、2階には認知症グループホーム、3～7階にはユニット（個室）型特別養護老人ホームとショートステイ（短期入所生活介護）が配置されています。屋上階の8階は自然を楽しむことができるテラスが、さらに1階には地域交流スペースも設けられています。

運営事業者である社会福祉法人平成会の理事長から、「番町の地にふさわしい、趣のある外観・内装を意識しました。また、面会に訪れるご家族の方、特にお孫さんに「また遊びに行きたい」と思ってもらえるような、誇りをもって生活できるような空間づくりを目指しました。」と説明がありました。

どのような身体状況の方でも無理なく入浴することができる浴室や、工事を進める中で新型コロナウイルスが問題となったことから、感染防止のための手洗いうがいしやすいように洗面台の形状を変更するなど、随所に工夫が見られました。

特別養護老人ホームとは、在宅での生活が困難になった要介護の高齢者が入居できる公的な「介護保険施設」のひとつであり、「特養」と呼ばれています。在宅での生活が困難になった要介護3以上の高齢者が入居でき、原則として終身に渡って介護が受けられる施設です。

設計は(株)日建設計が担い、番町らしいモダンで高級感がある施設は、機能的で個々のプライバシーにも配慮されていました。地域交流スペースも有効活用し、地域に密着した愛される施設になって欲しいと感じました。(委員長：内田直之)



モダンな内装 高級感のあるキッチン

文化財保存・活用特別委員会

国史跡常磐橋 文化財保護特別委員会視察

平成23年より修復工事が続いていた「常盤橋御門」「常磐橋」の修復が完了しました。

区議会では修復中も2度ほど訪れ勉強会を重ねてまいりましたが、修復中より見守ってきた文化財保護・活用特別委員会では、工事完了を受け11/17に視察を行いました。できるだけ既存の材料を使い、変わらぬ形での保存となっており、部分的に新しい材料を利用していますが、見事に復元されておりました。今後、公園の整備と資料展示施設を整備する予定です。新年度には一般に公開され、皆様もご利用いただけます。(委員長:たかざわ秀行)

常磐橋

1877年（明治10年）に築橋された都内に現存する最も古い石橋であり江戸時代には常盤橋門の木橋がかけられていましたが、萬世橋・鍛冶橋・呉服橋など旧来の外郭諸門を木橋から石橋に架け替える一環で東京府によって改築されました。

